

Race Report



— 2016 GT 耐久東海シリーズ 第2戦 2016年5月22日 —

「西浦サミット！」



開幕2連勝！ スターレットの年になるか #21



久しぶりの表彰台 #11



こちらも久しぶりの登壇 #46



一時はトップも走行 #107

伊勢志摩サミットに参加する各国首脳のうちで、先陣を切ってカナダのトルドー首相が日本に到着したこの日。それに先駆けてこの西浦の地に、首脳級の参加者を集めて2016K 耐久/GT 耐久東海シリーズ第2戦がスパ西浦モーターパークで開催された。

各クラスの頂点(サミット)をかけての争いは首脳会議に負けないほど白熱、さらには初夏を通りこして真夏日にも迫ろうかという天気にも劣らない、アツい走りを見せてくれた。

「1+2C」クラス(1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1850ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス)

第2戦は昨年チャンピオンの#15フィットが不参加、王座を狙う他のチームにとってはチャンス。とりわけ#21にとってはポイント獲得の絶好の機会。

他にFRの#107のロードスターと#318isや、開幕戦で初表彰台と波に乗る#411のスイフトなど計7台が参加。

今シーズンから設定されたEN(エンジョイ)クラスは、#77のロードスター、初参加の日産愛知自動車大学校が初々しくマーチで出走。

■予選

予選トップは#411「AITAC スイフト」1'03.916と初の03秒台に入れ、これまた初のクラストップを獲得。開幕戦3位初表彰台から飛躍を狙う。

2位は#21「ZEST ルブロススターレット」1'04.274、こちらは連勝を狙う。ちなみに大会サポートのルブロスオイル田中氏もドライバーとしてステアリングを握る予定。

3位#107「ウエリース ロードスター 1号」1'04.342、開幕戦ではこの速さが活かせずリタイヤとなっているだけに、今回は雪辱なるか。4位#318「剛式レーシング 318is 耐久号」1'04.738、こちらも開幕戦はエンジントラブル、今回は速さも身につけてのリベンジを誓う。

5位#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」1'06.282、開幕戦では燃料系のトラブルがあり少々ヒヤッとしたが、もちろん今回は対応済み。6位#67「みかんちゃんデミオ」1'06.924、昨年までの「クレイジーホース」から可愛らしい名前に変えての参加。7位は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」が1'08.028、こちらは唯一のリッターカー。

ENクラスはトップが#77「ウエリース ロードスター 2号」1'06.343、開幕戦ではエンジョイしすぎて(速すぎて)基準タイムアンダーとなっただけに、今回はどうか。2位は#24「日産愛知自動車大学校マーチ」1'10.355、まずは完走を目標にレースに臨んでほしい。

Race Report



■序盤

戦前の予想通り#21「ZEST ルブロススターレット」がレースをリード。それを追いかけるのは、このところメキメキと速さを増してきた#411「AITAC スイフト」。予選03秒台の力を見せ、#21をピッタリとマーク。

#107「ウエリース ロードスター 1号」も3位キープ。4位は#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、5位#67「みかんちゃんデミオ」、6位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、7位は#318「剛式レーシング 318is 耐久号」。まだまだレースは序盤。

ENクラスでは#77「ウエリース ロードスター 2号」が順当にリード。#24「日産愛知自動車大学校マーチ」も徐々に自分たちのペースを掴んできたようだ。



クラス予選首位を獲得するなど速さは◎ #411

■中盤

しっかりポジションキープの#21「ZEST ルブロススターレット」。トップを追っていた#411「AITAC スイフト」だが、ターン1でスピン、コースアウト。大きなダメージは無く戦列に復帰できたものの大きく順位を落としてしまう。

変わって2位に上がってきたのは#107「ウエリース ロードスター 1号」、3位#318「剛式レーシング 318is 耐久号」といったところ。

第2集団は#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」のヴィッツ。#46はリッタークラスのため義務ピットは1回少ない3回、これをうまく活かしての上位進出を狙う。

それ追うのが、スピンで順位を落とした#411 スイフト、#67「みかんちゃんデミオ」の順。



名前の由来はやはり色ですかね #67

ENクラスでは#77「ウエリース ロードスター 2号」がキープ。#24「日産愛知自動車大学校マーチ」も完走ペース。

■終盤

終盤になってもトップは相変わらず#21「ZEST ルブロススターレット」92Lap、2位に上がってきた#318「剛式レーシング 318is 耐久号」90Laps、3位は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」90Laps、4位は#107「ウエリース ロードスター 1号」90Laps、5位#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」89Lapsと大混戦。

6位#67「みかんちゃんデミオ」85Laps、7位は#411「AITAC スイフト」83Laps。

ENクラスは#77「ウエリース ロードスター 2号」が86Laps、#24「日産愛知自動車大学校マーチ」が80Laps。



最後惜しかった！ #318



今回はしっかりとポイント #77

Race Report



■最終結果

結局最後までトップを譲らなかった#21「ZEST ルブロススターレット」が2連勝。途中黄旗解除時の追い越しペナルティなどもあったが、トップを守り切った。2位は#11「アンリミテッドDXL ヴィッツ」が今シーズン初の表彰台。3位はしぶとい#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」がその実力をを見せて表彰台に滑り込み。4位は#107「ウエリース ロードスター 1号」、開幕戦のリタイヤから復活。5位はスピンが痛かった#411「AITAC スイフト」、しかし速さは本物だ。6位#67「みかんちゃんデミオ」、7位はチェッカー直前まで2位を走っていた#318「剛式レーシング 318is 耐久号」、最後ストップで悔しい完走扱い。

EN クラスは#77「ウエリース ロードスター 2号」、今回はアンダータイムもなく、名実ともに優勝。2位の#24「日産愛知自動車大学校マーチ」も規定周回数を大きく上回りお見事！

■総評

いよいよ#21「ZEST ルブロススターレット」が本領を発揮。今回第3ドライバーとしてステアリングを握ったルブロス田中選手曰く「とても乗りやすく、新タイヤのおかげもありタイムもいい」とのこと。このままシリーズを走りそうな予感。惜しかったのは#411「AITAC スイフト」と、#318「剛式レーシング 318is 耐久号」。ともに速さはかなりのところまで来ており、何かのきっかけで、勝てるポテンシャルは充分だ。混戦 1+2 クラスをかき回す存在になると面白い。

EN クラスで初出場の学生チーム、#24「日産愛知自動車大学校マーチ」の爽やかな活躍も印象深い。若者のクルマ離れがとやかく言われる時代、いろんな形で応援していきたいくなる。



初出場！ #24



がんばりました！！



鈴菌発見！





The パーフェクトが帰ってきた #110



ニューマシン投入で 2 位 #2



逆転で表彰台 Get #87



悔しい 4 位 #62



表彰台まであと一步 5 位 #106

「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクロズドクラス）

開幕戦の4台から倍増の8台が参加した3Cクラス。AE111を駆る#111チームは欠場だが、チャンピオン経験のある#450トルネオや、KISHIMOTOレーシングのシビックが岡山から遠征するなど充実した顔ぶれ。こちらの頂点を制するのはどのチームか。

■予選

予選トップは#110「DXL アライメント浜松レビン」1' 01.770、開幕戦に続き連続トップから連勝を狙う。2 位は#2「スピードハート IDI AP1」が 1' 01.821。瀬戸自動車チームがシビックから S2000 にチェンジしての参加。足回りを中心としたチューニング（チーム関係者）とのことだが、好タイムを記録しての 2 列目発進。決勝でも期待される。

3 位は#62「WN ワコーズCLNシビック」が 1' 02.690、開幕戦は 2 位、狙うは今季初優勝。4 位は久々#450「トルネオの大冒険」が 1' 03.088、一昨年には未勝利ながら年間王者という記録も達成した彼らが狙うのはもちろん勝利。

5 位は#106「D&M スパイクオート 106」1' 03.838、ドライ路面では厳しいかと思われるながらも 03 秒台に入れてきたのは流石、持ち前の粘りで上位進出を期待。

6 位#56「小田川運送 MMS 高田眼科 EK9」1' 05.399、かつては AA カルタスなどでも参加していた KISHIMOTO レーシングが岡山から遠征、久しぶりの GT 耐久をどう走るか。

7 位は#8「チーム 111 レビン」1' 05.400、もう一台のレビンはこの位置。8 位は#87「瀬戸自動車 T-Tune シビック」が 1' 05.898、かつてのシビックは新チームに託された、若手も多くまずは上手くペースを作りたいところ。

■序盤

序盤から#110「DXL アライメント浜松レビン」と#2「スピードハート IDI AP1」が接戦。同一 Lap でともに譲らない。

3 番手は#62「WN ワコーズCLNシビック」でこっちも離されずついている、まさに好バトルを展開。

4 番手争いは#8「チーム 111 レビン」と#106「D&M スパイクオート 106」が白熱、さらに上位進出をかけての争い。

以下は#87「瀬戸自動車 T-Tune シビック」と#56「小田川運送 MMS 高田眼科 EK9」、#450「トルネオの大冒険」が第 3 グループ。

この中で気になるのは#450「トルネオの大冒険」、序盤からエンジンが吹けない症状が出ておりトラブルを抱えている様子。もともとは地力のあるチームだけに、トラブルはもったいないか。

Race Report



■中盤

折り返しの中間点、まだまだトップを譲る気配のない#110「DXL アライメント浜松レビン」が77Lap。#2「スピードハートIDI AP1」も75Lapで続き、#62「WN ワコーズCLNシビック」74Lapと食い下がる。

さらに同一周回で#87「瀬戸自動車 T-Tune シビック」と#106「D&M スパイクオート 106」となっており、中団グループの争いが激化。

#8「チーム 111レビン」も72Lap、#56「小田川運送 MMS 高田眼科 EK9」が71Lapと逆転を狙い虎視眈々。調子の上がらない#450「トルネオの大冒険」もなんとか完走ペースの51Lapで踏ん張る。

■終盤

終盤まで#110「DXL アライメント浜松レビン」はレースをコントロール。2番手以下に2LapほどのGapを保ちながらトップを快走、ほぼここまでは思い描いた通りのレース運び。

なんとか追いつきたい#2「スピードハート IDI AP1」だが、なかなか肝心のところで崩し切れない。それは3番手#62「WN ワコーズCLNシビック」も同じか。表彰台の一角を崩したい#87「瀬戸自動車 T-Tune シビック」が懸命の追い上げ、#106「D&M スパイクオート 106」、#56「小田川運送 MMS 高田眼科 EK9」

あたりまでは表彰台のチャンス。

#8「チーム 111レビン」はターン1でコースアウトでリタイヤとなってしまった。#450「トルネオの大冒険」は最後の頑張り。



久しぶりの参加 #56



不調ながらもしっかり完走 #450



こちらは完走ならず #8



Race Report



■最終結果

結局今回も最後まで隙がなかった#110「DXL アライメント浜松レビン」が開幕戦に続き連勝、混戦のなかから抜け出したか。2位は#2「スピードハート IDI AP1」、マシンチェンジながらうまくまとめて2位、今後に期待が持てる。

3位は最終ステントで逆転した#87「瀬戸自動車 T-Tune シビック」が滑り込んだ。4位は惜しい#62「WN ワコーズCLNシビック」、5位#106「D&M スパイクオート 106」も表彰台まで1Lap という激戦だった。

6位#56「小田川運送 MMS 高田眼科 EK9」、7位はなんとか規定周回数をクリアした#450「トルネオの大冒険」でここまでが完走。



■総評

盤石のレース運びを見せた#110「DXL アライメント浜松レビン」、OP クラスの時に見せたパーフェクトが戻ってきたようで、チャンピオン争いをリードした。

2位に入った#2「スピードハート IDI AP1」、レース中の最速 Lap はクラストップ。このポテンシャルなら勝利も近い。

#87「瀬戸自動車 T-Tune シビック」の健闘も光る、かつての常勝マシンが、新チームによって3位に引き上げられ次戦以降に期待。

次戦はいよいよ真夏の4時間戦、今回リタイヤとなってしまったマシンや、トラブルの出たマシンは特に入念に整備をして、臨んでほしい。





今回もハットトリック #19



悔しいリタイヤ #405



「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

少々少ない出走となったこのクラス、今回も総合チェッカーを狙う#19「YADOKARI シブick」と、開幕戦で初の表彰台となった”昭和な”#405「インフィニティ FX」の2台。

■予選

予選は#19「YADOKARI シブick」、1' 01.381 と2 戦連続全体の PP。#405「インフィニティ FX」も快音を響かせて 1' 05.968。

■序盤

序盤から総合トップで快走、#19「YADOKARI シブick」、まずは定位置に付ける。開幕戦では完走 & 初表彰台となった#405「インフィニティ FX」、04 秒台までタイムを上げて周回を重ねる。

■中盤

中盤も#19「YADOKARI シブick」は順調、敵は自分自身とばかり盤石の体制。80 年代の青春時代の名車に 5 バルブ 4A-G とこれまた、グッとくる組み合わせの#405「インフィニティ FX」2 戦連続表彰台なるか。

■終盤

終盤においてもほとんど隙を見せない#19「YADOKARI シブick」がトップを堅持、2 時間経過で 97Lap。連続完走を目指していた#405「インフィニティ FX」だったが、ゴールまで 1 時間を残してストップ、リタイヤとなってしまふ。

■最終結果

結局#19「YADOKARI シブick」が開幕から連勝、今回も総合チェッカーという強さ。#405「インフィニティ FX」は涙のリタイヤ。

■総評

流石の#19「YADOKARI シブick」の強さ、このチームを止めるライバルの出現はあるか。リタイヤしてしまった#405「インフィニティ FX」だが、エンジン載せ替え（型式上は同じ 4A-G だけど）という、改造車の魅力に溢れており、次回以降も活躍してほしいものだ。相変わらず惚れ惚れするサウンドでした、いいなあ。



今回はスパ西からラーメンなどがプレゼントされた。

オイルおめでとうございます

